

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ていだぬふぁ			
○保護者評価実施期間	令和8年 4月 1日 ～ 令和8年 5月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	令和8年 5月 6日 ～ 令和8年 5月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組
1	(環境・関係性について) 児童と職員との信頼関係と、のびのび過ごせる安心な環境。	日々の丁寧なコミュニケーションを重ね、特性に寄り添った柔軟な支援を実践しています。	アンケート等の声を活かし、家庭と連携しながらより安心できる居場所づくりを進めます。
2	(活動・プログラムについて) 家庭では経験しづらい多様な活動プログラムを通して「できた」「やったことがある」という自己肯定感や自信を育む支援	五感を刺激する体験そのものを大切に、心が動く経験を通して「できた！」という自信を育む工夫をしています。	今後も新たな体験の機会を継続的に創出し、こども達がより多くの成功体験を積み重ねられるよう企画を充実させます。
3	(プログラムについて) コグトレや体幹トレーニング、SST等、多彩で目的のあるプログラム。	マンネリ化を防ぐため、集団・個別のレクを日替わりで組み合わせ、児童が楽しく継続できるよう工夫しています。	各プログラム（コグトレやSST等）の実施効果を定期的に振り返り、より個々の発達課題に沿った内容へ進化させます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	さらに充実を図るための取組
1	(事故への対策・安全確保について) 遊具利用時の安全管理体制の徹底。	動線や待機ルールの設定、児童への周知、見守り。広い敷地の中で職員がすぐに児童を支える事の出来る体制が課題です。	原因を検証し、明確なルールの策定や動線分離など、物理的・制度的な安全対策を見直します。
2	(業務効率化について) 新しい活動プログラムを考案する際の業務負担と、時間の確保。	新規の活動をゼロから考えることが多く、準備や計画の立案に多くの時間を費やしています。	既存の遊びのアレンジ手法を蓄積・共有して準備を効率化し、別の作業を進展させられるようにします。
3	(情報発信について) 自己評価結果や防災マニュアル等、事業所の取り組みに関する情報発信。	日々の業務が主となってしまう、保護者様に対して定期的かつ分かりやすい形での情報提供が不足していました。	お便りやSNS等を活用し、連絡事項や事業所の方針をタイムリーかつ確実にお届けする体制を整えます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ていだぬふぁ

公表日 令和8 年 5月 31日

利用児童数 3名

回収数 3

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3					
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1			2		地域のこども達との交流機会が不足しているため、近隣の公園遊びや行事への参加などを積極的に企画します。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2			1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	3					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2			1		保護者様同士の交流や学習の場が不足しているため、負担のない範囲で参加できる茶話会などを企画します。

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2			1		相談窓口や申し入れの体制が分かりにくい点を改善し、定期的なお便り等で連絡先や対応方法を再周知します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2			1		日々の活動や自己評価の結果が見えにくい点を改善し、SNSやお便りを活用した分かりやすい発信に努めます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1			2		防災マニュアルの存在や避難訓練の実施状況について、お便り等で定期的にご報告し、安心・安全に繋がります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2			1		万が一の事故時の対応について、事前の安全計画や発生時の迅速な情報共有の仕組みを改善していきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	3					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3					今後もお子様と保護者の皆様が安心していていぬふぁをご利用出来るよう、ご指摘いただいた内容を改善していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	3					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ていだぬふぁ		令和8 年 5月 31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0		児童の特性が多様化しているため、それぞれの感覚過敏等に合わせた個別の環境調整をさらに検討します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	指定基準に基づく人員配置基準を厳守し、毎日の利用人数に対して適切な人数の職員を配置しています。	職員の急な休暇時にも現場の負担が大きくなりえないよう、より余裕を持った人員体制の構築に努めてます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	活動内容に合わせて空間を区切り、視覚的にもわかりやすい構造化を行っています。	現状はバリアフリー未対応です。今後の多様なニーズを見据えた環境整備を検討課題とします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	備品の整理整頓をさらに徹底し、より安全で落ち着ける環境づくりを継続して行います。	活動ごとのスムーズな片付けや清掃が課題です。こどもが自発的に片付けやすい収納の工夫を進めます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	パニック時やクールダウンが必要な際に、一人で静かに落ち着いて過ごせる専用のスペースを設けています。	限られたスペースのため、他の児童の活動音を完全に遮断する工夫や、より安心できる空間作りが課題です
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0	毎日、児童の目標や支援内容を確認しながら支援の向上を目指してミーティングを行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	集計結果やいただいたご意見を全職員で共有して支援に活かしています。	いただいたご意見を、具体的な業務改善や日々の支援へ迅速に反映させるための仕組み作りを強化していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎日のミーティングで前日のヒヤリハットや支援の振り返りを行い、職員間で共有しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		現時点では第三者の外部評価の導入を考えておりませんが、必要に応じて取り入れていきたいと思っています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	2	管理者、児発管のみの研修が多い状況です	今後は外部研修への参加機会を意図的に増やし、得られた専門知識を事業所内で還元する仕組みを作ります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		「健康・生活」など事業所内では計画に取り入れにくい領域があるため、今後は家庭と連携して目標を設定していきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	モニタリングを通して子どもの状況を詳細に聞き取った上で、具体的にスモールステップでの目標を設定した計画を作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	児発管が作成した後、日々の支援に直接関わる現場の職員も交えてケース会議や打ち合わせを行い、意見交換を実施しています。	全職員が揃ってじっくり検討する時間を確保することが難しい場合があります。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	支援計画を常に確認できる状態にし、活動記録の記入や日々の目標設定時に意識して支援にあたっています。	複数の目標に対して均等な支援が行き届かないことがあるため、優先順位を明確にして支援の偏りを防ぎます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		今後、標準化されたアセスメントツールに関する職員研修を実施し、より客観的で専門的な評価を支援に取り入れていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	直接的な療育に加え、保護者様へのヒアリングから家族支援や、学年に応じて将来の自立や進学に向けた移行支援も設定し、多角的な視点から育ちを支える具体的な支援内容を計画できるよう努めています。	「本人支援」に関する目標は具体的に設定できている一方で、「地域移行支援」については、内容が抽象的になりやすい傾向があります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	職員会議で様々な視点から意見を出し合い、それぞれの得意分野を活かしながらチームでプログラムを立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	こどもの興味関心の変化を日々観察し、新しいレクや活動を定期的に取り入れてマンネリ化を防いでいます。	新しい活動の考案に時間を使うことが多いため効率化できるよう考えています。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	ひとりの時間に集中する活動と、友達と関わる集団活動をこどもの実態に合わせてバランス良く組み込んでいます。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	毎日の朝礼で、利用児童の当日の様子や活動内容、職員の配置や役割分担を必ず確認し情報を共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	時間的な制約で深い議論ができない日もあるため、後日朝礼ミーティングで丁寧に振り返りを行っています。	日にちをまたくと、直接かかわった職員がシフトでいないこともあるため、内容がきちんと共有される工夫を行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	日々の支援記録を必ず残し、こどもの小さな変化を可視化することで、支援内容の見直しや検証に活用しています。	「活動の記録」にとどまることもあるため、活動を通して療育的な視点で記録できるよう記録技術の向上を目指します。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	定期的にモニタリングを実施し、こどもの成長や目標の達成度を確認した上で、計画の適切な見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児発管が出席します。日頃から直接こどもと関わり、特性や状況を把握できるよう努めています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	4		医療機関等との連携機会がまだ少ないため、必要の際は積極的にコンタクトを取り専門的な助言を仰ぎます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	保育所等を併行利用する児童について、定期的に園の先生と連絡を取り合い、有効な支援方法の共有に努めています。	保育所や幼稚園等と直接情報交換を行う機会がまだ少ないため、積極的に連携を図るための仕組みづくりを検討します。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	就学後、支援クラスの先生との情報共有を行っています。	就学前・就学後出来るだけ早い段階でモニタリングや担当者会議等を実施し児童の支援や療育的なかわりが継続されるようにします。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	3	3		直接的な助言を受ける機会が少ないため、困難事例の発生時は積極的に相談し、センターとの連携を深めます。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	公園遊びや公民館の行事等を通じて、地域のこどもたちと同じ空間で過ごし、自然な形で社会性を育む機会を設けています。	今後、地域の保育園や幼稚園と連携し交流を深める機会を持ちます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時の会話や連絡帳を通じて日々の些細な変化も丁寧に伝え、家庭との信頼関係構築と共通理解に努めています。	保護者とゆっくり話す時間が取りにくいいため、定期的な面談の案内を強化し、じっくり相談できる場を作ります。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	家庭での困りごとに寄り添い、送迎時や面談時に具体的な関わり方のアドバイスをを行うなど家族支援に努めています。	体系的なペアレントトレーニング等の実施には至っていないため、今後は役立つ情報プリントの配布等を検討します。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時に重要事項説明書や運営規程を一つずつ読み合わせております。質疑応答の時間を設けて丁寧な説明を行っています。	内容が複雑で理解が難しい部分があるため、文章の読み合わせだけでなく具体例を用いながら説明できるようにしていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		保護者から自発的な意見をいただく機会が少ないため、些細なことでも気軽に伝えやすい雰囲気づくりや説明を心がけます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	面談時に計画書を提示し、目標や支援内容を分かりやすく説明した上で、必ず書面で同意を得ています。	送迎の際に説明と同意をいただく事もありますが可能な限り丁寧に説明が出来るようにしていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	悩みや相談を受けた際には、職員で共有しながらご家族の悩みが解決に向かうような対応や支援を考えています。	面談等を通してゆっくりとお話を聞く機会を作り、より相談しやすい環境を整えていきます。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	季節の行事等に家族を招待し、異年齢の子をもつ保護者やきょうだいがある形で交流できる機会を設けています。	開催頻度が少なく、参加できない方がいらっしゃるため、開催頻度を出来るだけ増やせるよう計画いたします。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	ミーティング等を通して職員間で、相談やご意見の内容を共有しながら統一した対応が出来るよう心がけています。	職員によって対応が異ならない様、保護者にその後の変化や状況を確認しながら対応を整えていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2		LINE、HPともに発信の頻度が少ない為、今後活動の様子やお友達との関わりの様子を定期的に発信していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	職員間で個人情報保護のルールを徹底しています。	SNS等へ写真を掲載する際のルールを再確認し、同意書の有無を含めてチェック体制を強化します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		特性に応じたコミュニケーション支援が不足しているため、多様な伝達ツールをさらに準備していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	新年やお盆に数名の児童と挨拶に周り、放課後等デイサービスの活動に理解を得てもらえるよう関わっています。	行事への地域住民の招待など継続できていないため、継続可能な地域交流の企画を今後検討していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	各マニュアルを作成し、利用児童と一緒に定期的に訓練を行っております。	保護者の方への周知徹底をしていくとともに、災害訓練の様子の報告が出来るよう努めていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		定期的なBCP見直しを行い、災害発生時に安全に行動できるよう今後も定期的な訓練を行っていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1		てんかんや予防接種については確認が十分ではない為、今後確認していきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	食物アレルギーの誤食を防ぐため、おやつは原則として各家庭からの持参とし、事業所からの提供を控えています。	現在は保護者への確認が中心となっております。こども同士でおやつの交換がないよう見守りを徹底いたします。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		安全管理計画等を保護者と共有するとともに、再度、備品や遊具の安全点検を行いながら、管理・訓練を進めていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	事故発生時には保護者へ迅速かつ客観的な事実報告と情報共有を行っています。	安全な利用ルールについて改めて保護者と共通理解を図り、事業所の各施設や備品に対する安全計画を見直しご家族に共有していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハットや事故は記録・共有しています。直近の遊具での衝突事案についても客観的な原因分析を実施しました。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	国の規定に沿って、年間計画のもと虐待防止研修や会議を行っております。	子どもたちが安心して過ごす事の出来る様、今後も職員研修やケース会議を重ねてまいります。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	飛び出し、他害、自傷が起こりうる時と代替の手段がない時にのみ保護者様と相談したうえで計画に記載しております。	自傷、他害については出来るだけ職員の介入や環境整備で防げるよう、児童の負担を極力減らせるよう今後も努力してまいります。